リカバリーに関する新機能

JJ1SXA/池

パソコン不調時の Windows の修復機能が大進化です、Windows11（24H2）でリカバリーが手軽になった新機能の話です。

クイックマシンリカバリー（Quick Machine Recovery：QMR）

（Windows をネット経由で自動修復する機能）

Windows11（24H2）世代からは、OS が起動不能に陥った際に自動修復を試みる、この機能が追加された。

この機能は、OS が正常に作動しない状態でも自動でインターネットに接続、マイクロソフトが配信する最新の修復用パッケージを取得・適用できるのだ。

従来、Windows11 には起動不能時の自動修復機能として「スタートアップ修復」機能が用意されていたが、クイックマシンリカバリーはこれを強化する機能となる。

スタートアップ修復が、主にシステムファイルの破損などパソコン内部の情報だけで完結するトラブルに対処するのに対し、クイックマシンリカバリーは、Windows Update やデバイスドライバー配布のミスといった外部要因による広範な障害を、マイクロソフトのサーバーから修復パッケージを取得して解決する。

クイックマシンリカバリーは初期設定でオンになっているはずだが、確認した方が良い、設定で、システム→回復→クイックマシンリカバリーでトグルスッチのオンを確認。

クイックマシンリカバリーの修復プロセスは、起動に失敗すると自動で回復モードに移行を繰り返し、修復に成功すれば Windows11 が起動し、失敗すれば、「修復できませんでした」と表示される。

Windows Update で問題を解決する

（Windows Update から再インストール）

パソコンの動作が不安定になったら、リセットや再インストールを実行して問題を解決したいところだが、その場合は、再設定やアプリの再インストールが必要となり手間がかかる、なるべく手間をかけないで問題を解決するには、Windows Update で、問題を解決する機能を使う。

アプリや個人データなど現在の環境を丸ごと残しつつネットからシステム関連のファイルを入手、上書きして問題を解決する仕組みだ、ただし、リセットやクリーンインストールより作業時間はかかる（2～3 時間）、だがバックグラウンドで動作するので他の作業ができる。

使い方は、「設定」画面から「今すぐインストール」ボタンを押すだけ、確認画面で「OK}ボタンを押せば作業は始まる。

すると、「Windows Updatede」が起動し必要なファイルのダウンロードを実行、完了すると再起動を促される、ここまではパソコンで他の作業ができる。

再起動後は待つだけ、最後にサインイン画面が表示されれば一連の作業は完了、修復後、一部の更新ファイルが未適用のことがあるため、手動で Windows Updatede を実行する。

この方法はすぐに直したい場面で有効だが、すべてのトラブルを解決できるわけでは無い。

ポイントインタイムリストア（Point in time Restore：PITR）

（時間を巻き戻して最初から不調が無かったことにする）

＊PITR は現在開発中で、公開されているのは「Windows Insider Preview」版、正式版では変更されるところもあるかも知れない、公開は 2026 年後半か？と言われている。

ポイントインタイムリストアは直訳すると「特定時点への復旧」を意味し、この機能は、時間を指定して不調発生前の快適だった状態へ丸ごと書き戻す。

この書き戻しの対象は、作成したファイルも例外ではない、誤ってファイルを削除してしまった場合には、そのファイルが存在していた過去の状態を再現することで復元できる、ただし、復元時点より後に作成・更新されたファイルは全て消失する、そのリスクを理解してバックアップ等で対応することが必要。

復元ポイントの作成スケジュールは標準では 24 時間ごとで、作成から 72 時間（3 日）が経過すると、順次削除されるサイクルだ。

データ消失のリスクを最低限に抑えるには、作成間隔を最短の 4 時間ごとに変更する、それでも数時間分の作業内容は消えるので、外部への常時バックアップは不可欠だ。

ポイントインタイムリストアを実行するには」設定」画面で「システム」→「回復」とたどり、「PC の起動をカスタマイズする」の右の「今すぐ再起動」を押す。

確認画面が標示されるので「今すぐ再起動」をクリックする。（この操作をする前に、個人データはバックアップしておくこと）

前述のとおり、ポイントインタイムリストアの一般ユーザー向けの公開は少し先になるが、こんな素晴らしい機能、早い公開を願いたいものだ。

（2026 年 6 月記）